

## 主の降誕 夜半ミサ

2010.12.24

ルカ 2・1-14

クリスマスおめでとうございます。

クリスマスイブの今夜、私たちはここに集って、世界中の教会や修道院で祝われているクリスマスのミサに参加しています。教会が祝うクリスマスは、今朝読されたルカ福音書が告げている、イエス・キリストの誕生を祝う祭りです。

イエス・キリストがお生まれになった夜、ベツレヘムの町はずれで羊の番をしていた羊飼いたちのところに天使が現れて、そのことを知らせたと福音書は語っています。天使は神のみ使いです。天使が告げた知らせは、天からもたらされた、神からの知らせです。「恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」天使のことばです。突然の天使の現われに接してうろたえる羊飼いたちに天使は「恐れるな」と語りかけます。「恐れるな」というこの呼びかけは、ありうべからざる天使の出現に度肝を抜かれ、どのように対処してよいか分からずに、うろたえる羊飼いたちに、「落ち着いて、よく聴きなさい。」と語りかけているのです。

私たちは、聖書の中の羊飼いたちのように、天使を見たり、天使の声を聞いたりすることはありません。けれども、今晚初めてクリスマスのミサにお出でになられた方や、クリスマスだからということで、暮れのあわただしさの中、やっとの思いでこのミサに駆けつけられた多くの方々にとって、このミサで祝われているクリスマスのすべてが、とても現実のこととは思えないかもしれません。現実の生活の中に身を置く、多くの私たちにとって、こうしてクリスマスの祝いに参加すること自体、あまりにも自分には場違いな感じがして、戸惑いを感じざるをえないかもしれません。そのような私たちにも、今聴いた聖書を通して「恐れるな。落ち着いて、よく聴きなさい。」と天使は呼びかけているのです。羊飼いたちが羊をその場に残して、天使が告げる救い主の誕生の場に駆けつけたように、私たちも現実の生活をそのままにして、こうして、天使の呼び声に応えるようにして、クリスマスの祝いに参加していると言えるのではないのでしょうか。そのようにして、私たちも聖書が語るクリスマスの世界に招き入れられるのです。

今晚、私たちが聴くべき天使のことばは、あの夜、羊飼いたちが聴いたのと同じことを、私たちに語りかけます。「わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」天使のことばは、神からのクリスマスのメッセージです。クリスマスの喜びは神から与えられる喜びです。その喜びは、私たちのために救い主がお生まれになったことによって

もたらされる大きな喜びです。このことを喜び合うのがクリスマスの祝いです。この喜びの輪の中に入って、一緒に喜ぶことが出来るためには、もう一度、天使のことばに耳を傾けなければなりません。天使は羊飼いたちに「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった」と語りかけています。地中海沿岸の比較的温暖な気候に恵まれた土地柄であっても、季節によっては、夜ともなければ凍えるような寒空の下、生きてゆくための仕事とは言え、羊たちと共に野宿を重ねなければならぬ羊飼いです。町に暮らす一般の人々にとっては、目の前に彼らの暮らしぶりが映し出されられることでもなければ、脳裏にも浮かぶことがない、彼らの現実を生きる羊飼いたちです。そのような現実を生きる羊飼いたちに、天使は「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった」と知らせたのです。「あなたがたのために」という天使の呼びかけは、直接的には天使の声を聴いた羊飼いに向けられています。けれども、そのことによってもたらされる喜びは、「民全体に与えられる大きな喜び」です。天使を通してもたらされた、この神からのクリスマスのメッセージによって、その多くの時間を町の人々の暮らしからは遠く離れて生きてゆかなければならぬ、そしてその分、町の人々の数の中には入れない羊飼いたちの現実が、民全体に与えられる大きな喜びの中に含まれているのです。しかも、彼らは民全体の中で、神から与えられる喜びを最初に知ることが出来た者たちとされているのです。これがクリスマスです。天使のお告げによってもたらされた神からのクリスマスのメッセージは、羊飼いたちの現実、そして私たちの現実に向けられているのです。

天使が告げたこのクリスマスのメッセージは、クリスマスの夜ベツレヘムの飼い葉桶の中に寝かされた救い主によって、私たちにもたらされたことと聖書は語りまします。羊飼いたちへの天使のことばは続きます。「あなたがたは、布に包まって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」二千年の歴史を超えて、クリスマスの喜びを沸き立たせてきた、クリスマスの中心に神から与えられたしるし、それは布に包まって飼い葉桶に寝ている乳飲み子です。私たちの現実の底の底に息づく、生まれたばかりの神のひとり子です。それは、天使のことばを信じて、それを確かめる気になれた羊飼いたちだけが見出すことが出来たしるしです。そしてそれは、これ以上には考えられないほどの、むき出しの私たちの現実の中に、神から与えられた救い主のしるしです。何故、救い主は布に包まれて飼い葉桶の中に寝かされなければならなかったのでしょうか。ヨセフと臨月を迎えているマリアのために宿屋には場所がなかったからです。何故宿屋を探さなければならなかったのでしょうか。好き好んで出た旅ではありません。国中の人がそのように強制されたからです。遠いローマの地で決定された皇帝の勅令を受けて、この地のローマの官僚によって

実施されることになった人口調査の命令を受けてのことです。それが実施されれば、どのように考えても、先行きますます悪くなるとしか思えない重圧が人々の心に重く押し掛かっている、そのような現実の底に、神のひとり子、私たちの救い主はお生まれになられたのです。

あの時も今も、生まれたばかりの乳飲み子である、救い主はただ無心に眠るだけで、私たちのために何もしてはくれません。けれども、何もしてはくれない救い主は、そこにいてくださることによって私たちすべての者の救い主であるのです。そのことを私たちが知ることが出来るのは、羊飼いたちが聞いた天使たちの歌によってです。「天のいと高きところには、神に栄光あれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」この天使たちの歌声は何を私たちに告げているのでしょうか。あの時と変わらない私たちの現実、神に見捨てられてはいない。それどころか神はその現実を私たちと共に生きるために、その御ひとり子を私たちのために、私たちの中に遣わしてくださった、その喜びを歌っているのです。クリスマスが地上に生きる私たちにもたらすクリスマスの贈り物は、天使たちが歌っているように、平和です。その平和を味わうために必要とされていることは、神の御心に適う者となるということです。神の御心に適う者となるためには、私たちもあの羊飼いたちのように、神が私たちに与えてくださっているしるしを探しに行かなければなりません。そのしるしとは、飼い葉桶に眠る神のひとり子である乳飲み子が示しているように、私たちのこの現実が、神によって見捨てられてはいないということを示すしるしです。神に見捨てられてはいないということは、私たちにはまだ希望があるということです。たとえ私たちの行く手が現実の厚い壁に阻まれ、それにぶち当たって、この身が傷つき、粉々になろうとも、そのような私たちのために、神は希望を備えていてくださるのです。それは、このクリスマスの夜、私たちのために、私たちの中にお生まれくださった神のみ子の十字架が示す希望です。

圧倒的な現実の力に押し捲られながらも、私たち自身の中に、私たちが生きるこの現実の中に、クリスマスがもたらす、そのような希望のしるしの一つも見出すことが出来るなら、私たちの心は平和を取り戻し、ささやかではあっても、私たちも、私たちのクリスマスを祝うことが出来ることでしょうか。そのようなクリスマスの喜びをここに集うすべての人のお互い同士のために願って、このクリスマスの祝いのミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高